

農業分野では、自動運転トラクターに代表されるICT技術の導入により、スマート農業化が進行しています。

今回紹介するのは、果樹園における自動草刈りロボットです。ロボットが自動で、昼夜問わずに草刈りをやってくれるのです。

6月8日(月)、和同産業(株)長野営業所の御協力により須坂市で実演会が開催されました。実演機は、同社が開発したロボモアKRONOS MR-300です。全長84cm、幅52cm、重量16kg。1時間草刈りをして、1時間充電。この繰り返しでおよそ1週間で約30aの面積を草刈りできます。



(ロボモア本体)

当日は、草丈50~60cm位の雑草が生えるりんご園内を、縦横無尽に行ったり来たり。背の高いギシギシも難なく刈ることができ、その能力に、見学した農家は驚いていました。



(草刈りを始めて2日目。まだ刈ってないところもあります。)

果樹園の草刈りは結構大変な作業です。多くの場合、乗用の草刈り機で作業しますが、樹の幹、枝によって作業者がケガをすることもあり、危険が伴います。

ロボット草刈り機により、安全とともに、省力化、効率化が図られます。今後は、草刈り作業に限らず、他の作業でも自動化が進んでいくのでしょうか。